

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190400663), 法人名 (社会福祉法人杜の会), 事業所名 (グループホーム福井倶楽部), 所在地 (札幌市西区福井4丁目14-18), 自己評価作成日 (令和3年12月1日), 評価結果市町村受理日 (令和4年1月14日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190400663-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイソ401), 訪問調査日 (令和3年12月22日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム福井倶楽部は民家改修型の1ユニットの小さなグループホームです。西区福井の住宅街の中にあり、高台に位置しているため、居間の窓からの眺望は素晴らしく四季折々の景色や花火も見ることが出来ます。また、近くに小学校や中学校もあるのでコロナ前は太鼓の発表会や運動会を観に行く事もありました。利用者の平均年齢は90歳ですが、皆様お元気で一緒にご飯を作ったり掃除をしたりと、皆で助け合いながら賑やかに生活しています。皆様が元気で安全に過ごせるよう、系列施設の理学療法士や管理栄養士の指導の下、個別の対応に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内西区の落ち着いた住宅地の一角に立地する事業所で、高台にあるため居間の大きな窓から四季の見事な景観を満喫できる環境下にある。周辺地域とは、開設以来関係を深めており、コロナ禍で中断しているが、利用者と共に地域行事や各種イベントに積極的に参加している。事業所の特長点として、利用者一人ひとりの気持ちや個性、認知症状に寄り添い、個別のケア提供に多面的な検討と工夫を重ねている事が挙げられる。頻繁な外出や豊富な食の提供により、日々の生活が充実し、楽しみが増すように取り組んでいる。平均で90歳を超える現状下で外出困難や食欲低下等の際も、その人の安心できる楽しみは何かを検討し、柔軟に残存機能を生かした支援を行っている。また職員のスキルアップへも積極的に取り組み、職員の気付きや発言を促す仕組みや、コミュニケーションカードを活用し職員の利点やプラス面を取りこぼすことなく評価するなど、モチベーション向上への取り組みも特徴的である。管理者を始めとして全職員は資格を有しており、専門職として誇りをもって介護に従事している。利用者は家庭的な安らぎの場でその人らしく過ごしており、1ユニット9名の小規模の特性が生かされた事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は月に一度唱和している。ホーム内数ヶ所に理念を掲示し全職員で理念を共有し実践に心掛けている。	地域密着型事業所の意義を踏まえた理念は、事業所内の要所に提示し、月1回朝礼時に唱和し、職員間で共有している。新人職員には、ケア場面の実践で伝え、事業所の目指す基本線の理解を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は町内会の行事は全て中止で行事での交流はなかったが、近所の方とは日常的に挨拶を交わしたり野菜や果物を頂いたりしている。	事業所のお便りを町内会に回覧し、日頃から親睦を深めており、昨年と今年はコロナ禍で中止となっているが、町内会行事と事業所でのお祭りに相互で参加し、交流を促進している。昨年度は町内会の班長も務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の回覧板にホームの広報誌を入れ活動の様子をお知らせしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は皆で集まったの会議は行わず、担当者に電話や書面で活動を伺った。議事録は掲示しご家族に送付している。	コロナ禍で会合式の運営推進会議は行わず、家族や包括、町内会役員と電話や書面で開催している。議事内容も行事や出来事の内容から、事故やヒヤリハットにも及んでおり、サービス向上へと繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は札幌市主催の管理者会や集団指導等全て中止だったが西区の管理者とは連絡を取る機会があった。	コロナ禍で対面や集団での会議や集まりは中止となっているが、日頃から運用や解釈については介護の更新申請等で指導を受けており、情報交換に努めながら信頼関係が維持・継続できるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一回身体拘束等適正化の為の対策検討会議を行っており職員にも周知している。日常的に不適切なケアについての確認や振り返りをしており、身体拘束や抑制のないケアをしている。玄関は建物の構造施錠している。	事業所内に身体拘束等適正化委員会を設置し、指針を定め3ヶ月に一度の頻度で委員会を開催している。議事内容は、日頃の介護の検証と検討であり、また直近の会議で各職員に内容の感想を文書で求める等、周知徹底に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は外部研修は受講していないが、内部研修や接遇・不適切ケアのチェック、日々のケアの見直しを行い振り返る機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいなく活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時管理者が説明を行い、理解、納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には入居時管理者が苦情の窓口等の説明をしている。近況報告や相談、要望は随時行っている。	お便り「みんなのいえ」を毎月発行して利用者の生活の様子を家族へ伝えている。また事業所のサービスや職員の態度についても、アンケート調査を行い検証し、意見や苦情を集約し、サービス向上に役立てている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞く機会は設けている。法人本部との個人面談や月1回の法人内の運営会議を行っている。	8人の職員数でまた長期勤務者も多く、日頃から意見交換はスムーズに進められている。また「はっぴいコミュニケーションカード」も活用しており、一人ひとりの行動や行為について積極的に高く評価し、モチベーションの維持に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、昇給制度、寒冷地、年末年始手当等あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は外部研修は受講していないが、内部研修は職員一人ひとりに必要な研修に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為交流する機会は無かったが、ネットワーク作りはしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の関わりの中で時間をかけ関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡を取ったりゆっくり話を伺い、これまでの経緯や関係性に配慮し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや、必要としている支援を見極めケアプランに反映させている。他のサービス利用はない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを尊重した対応に心掛けている。出来る事は一緒に行い、個別に対応する事もある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の関係性に配慮しながら対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為に出来ない事も多かったが、ご家族に写真を送付したり、テレビ電話を利用し支援している。10月18日から予約制で面会制限を一部解除している。	面会制限の期間中は、TV電話やラインで情報や写真を送り、孤立感や渴望感が最小になるよう努め、概ね好評を得ている。	面会制限の中で幾多の方法により、利用者と家族間の関係を最重要視した努力に対し高く評価したい。今後については、利用者の情報や写真を家族と共有するのに留まらず、家族の新しい情報・写真も利用者が共有できるような取り組みに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報を共有しながら利用者同士の関係に配慮し関わり合えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に何かあれば相談等対応出来る事はお伝えしている。先日以前入居されていたご家族様より相談があり対応した。他、退居後もご家族が訪ねてくれたり、年賀状のやり取りをしているご家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いを把握し、職員間で情報を共有し、より本人本位の生活が送れるよう支援している。	毎日の生活を支えながら、嫌な事や好きな事等々を把握し、職員間で共有、本人の意向に沿った暮らしを支援している。また最終段階への本人の希望は、定期的に聞き取り、ケアプランに活かせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の言動やご家族からの情報をもとにセンター方式を使用し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活での関わりや観察からアセスメントをし把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の中で本人やご家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。	ケア会議でモニタリング等を検討し、本人や家族の意向を据えながら介護計画を作成し、短期目標を設定している。介護日誌には、短期目標への日々の把握を中心に記録しており、また病変等の場合は即座に変更を検討し、現実に対応した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化は細かく記録し、職員間で情報を共有している。ケアプランに基づいた記録になるよう心掛け、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度柔軟な対応が出来る様努めてはいるが、今現在対象者はいない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族と協力しながら一人ひとりが安全で個性豊かに暮らせる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いまいホームケアクリニックの往診を月2回受けており、それ以外も特変時や急変時24時間対応で報告、相談している。必要時家族対応にてこれまでのかかりつけ医の受診をしている方もいる。	かかりつけ医は利用者や家族の意向を中心に決めているが、看取り体制や普段からの安全性を考慮し往診や訪看が可能な協力医への変更もお願いしている。協力医療機関とは往診と24時間オンコールであり、安心できる適切な医療体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職員や週1回来る系列施設の看護師に都度報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院2件あり。入院中の経過やリハビリの様子今後の方向性等病院職員と密に連絡を取り合い情報交換や相談に努めた。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	定期的にご家族や本人に終末期についての意向を伺っている。ご家族にはADLの変化があった場合は日々の対応について報告、相談をしている。	看取り介護については、積極的対応に努めているが、民家改造型の住宅での重篤化介護も困難で、利用者にとって最適で適切な介護を家族と医療と事業所とで検討しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部研修や災害時訓練を行っている。	年2回、消防署の指導により火災や地震対応の避難訓練を実施している。また法人本部の全面的なバックアップ体制もあり、災害用の食料等備蓄品や停電用の冬季暖房機材も準備し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や不適切なケアのチェック等定期的に行い、随時、見直し確認をしている。尊厳を持った対応を心掛けている。	介護の基本は接遇であり、定期的に自己チェックを行い、具体的には、赤ちゃん用語、見下した言葉掛け等のNGワードが使われた場合、その場で確認し、礼節ある介護を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれの性格や残存能力を考慮し、自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや日課大切に、希望にそえる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々整容には配慮している。行事の時等おしゃれをしたり希望者にお化粧をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在新しいメニューを取り入れ量や味、彩り等見直し中。管理栄養士の指導の下不足な所は検討している。準備や片付けは利用者と一緒に行っている。	献立は管理栄養士の指導の下考案し、味だけではなく見た目も重要視し、写真等を用いて全職員で過不足を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況や嗜好に合わせた物を提供している。盛り付けや器の工夫、時間をずらす事等柔軟な対応が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った用具を使って口腔ケアをしている。毎食後行っている方は数名。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力トイレでの排泄を促し、一人ひとりの排泄のパターンを把握し本人とも相談しながらパットを検討している。夜間ポータブルトイレを使用している方1名。	排泄は、おむつ使用者であってもトイレにて排泄することを基本とし、またおむつ等の補助具も、本人の適正に合わせて利用している。乳酸類や軽い体操も取り入れ、自然な排泄になるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が摂れるための工夫、乳製品の提供や適度な運動を促している。現在乳製品を増やす為のメニューを検討中。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの日課やタイミングに合わせて柔軟な対応をしている。月曜日から土曜日の中で週2回入浴できるようにしている。拒否があった場合は日曜日にも入浴行う事もあり。	毎日、浴槽にお湯を溜め、いつでも誰でもが入浴できる体制を維持しており、週に2回以上を目標に努めている。入浴拒否者には無理強いすることなく、臨機応変に対応している。また浴室は1階にあるため、移動は慎重に行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ思い思いの時間に眠くなったら寝ている。状況により安眠出来る対応(ホットミルク・湯たんぽ)をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はそれぞれファイルに綴じている。変更時は記録に記載し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや能力に合った活動や余暇を提供している。外出が出来なかった為、食事を楽しんでもらえる機会を増やした。こまめな模様替えや通販利用で気分転換している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、近隣の散歩や裏の畑へ行ったり数回ドライブに行く程度の外出のみ。	コロナ禍の前は頻繁なお出かけがメインであったが、状況的に難しいため、事業所前の公園やご近所の散策で凌いでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にお金はこちらで管理している。お小遣い程度自分で所持している方もいるが、コロナの為使える支援をする機会はなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をかけた(テレビ電話も含む)手紙の希望者には対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節の造花をや掲示物を飾ったり、2階の居間の窓からの景色で四季の移り変わりを楽しんでいただけている。	民家改造型で居間兼食堂は2階となっており、1階にも多くの居室があるため、離設等の防止のため、全家族の了解のもと、玄関は施錠状態となっている。居間兼食堂からの眺望は素晴らしく、遠くは増毛連峰、近くは三角山から藻岩の山々が見渡せる四季の移ろいは、利用者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	都度利用者のレベルや関係性を考慮しながら居場所作りをしている。新入居者が入ってから食事の席を色々試したり、職員の声掛けを工夫しながら対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使い慣れた家具、好みの物を持ってきてもらい居心地よく過ごせる部屋にしている。窓からの景色を楽しまれたり、頻りに部屋の模様替えをして気分転換をしている方もいる。	居室は在宅当時の日用品や家具が持ち込まれ、位牌に毎朝手を合わせる事も在宅当時の習慣であり、家族の写真を飾るなど個々に居心地の良さに工夫が見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要時貼り紙等で場所を分かり易くしたり、手すりを使って極力自力で歩けるよう支援している。今年度は脱衣所のカーテンを新たに取り付け、入浴中でも利用者が自由に浴室横のトイレに行けるようになった。		